

『花を訪ねて： 古代蓮』

行田・古代蓮の里散策(令和3年7月14日(水))

「ビスターリ」も「新型コロナウイルス」のために、昨年初から会としての活動を自粛せざるを得ない状況だったが、ようやく大方の人が「Vaccine」接種を終えたので、「行田の古代蓮」を見に行くことにした。NHKでは6月26日のニュース番組で、行田の「古代蓮の里」の花が開花し始めたとの状況を紹介した。まだ、花数は少なそうなので、今後十分楽しめるであろう。

今は梅雨の真っ盛り時期なので、晴れの日を求めるのはとても無理、せいぜい雨のない曇りを期待するしかないのだが、これがまた難しい。兎に角7日(水)の例会で14日(水)にしようと思った。後は“運天まかせ”だ。今、九州では熊本県をはじめ、長崎、大分県などでも「大雨特別警報」が出ているうえ、「新型コロナウイルス」の蔓延中での“遊山”は、いささか気が引けるが、伊藤、荻野、神田、三浦、陽田の5名が参加した。

高崎線、鴻巣辺りで土砂降りの雨が降ってきた、しかし行田駅での集合時刻の8時頃には殆ど止んでくれた。「古代蓮の里」までの路線バスは30人乗りの小形で満員になった。蓮の花は朝開花して、段々閉じてしまうのと、「新型コロナウイルス」の電車の混雑を避けるにも、朝早めに出掛けるのがよいのだ。

8時半、約25分で、「古代蓮の里」に着いた。ここは行田市財団法人の管理で、入園無料で、市の補助と駐車料金だけの収入らしい。

正面の「世界の蓮園」には、世界各国から全42種類の蓮の花が分けられて咲き誇っている。蓮は花が2m位の高さに咲いているのもある、驚きだ。真正面に「大賀蓮」があった。ピンク色の大輪咲きだ。他の種類ではピンク色が多いが白色、黄色などの花もある。「大賀蓮」も「行田蓮」も共に古代蓮で、区別付けにくかった。

園の中の方に入っていくと、広い蓮の池があり、ピンク色の「古代蓮」が茂っている。花は1m(以上)にもなる長い茎の先に咲いているので、横から見ると形になる。葉も大きく30~40cmはあるだろう、まだ蕾もあるがもう花が終わって如雨露の先(シャワーヘッド)のような実ができているものも多い。正直、少し盛りは過ぎているがまだまだ十分楽しめる。池の中には板橋が稲妻状に組まれていて、一方通行で散策するようになっていた。「行田蓮」の池は数ヶ所に分かれており、かなり広い。園内周遊にはたっぷり1時間以上かかるだろう。

今回は三浦御大のご提案で、この後「さきたま古墳公園」、「忍城跡」と欲張り行程である。10時半発のバスで「さきたま古墳公園」へ行く。

この公園には広い敷地に9基の大型古墳がある。先ず「丸墓山古墳」に向かう。珍しい高さ19mの円錐形古墳だ。頂上まで木の階段があり、今日的一座目登頂。頂上からはるか西方に「忍城」の「三階櫓」が望めた。次は前方後円墳の「稲荷山古墳」を目指す、こちらは高さ11mで、二座目完登。しかし、お墓の上を登って歩くなど、なんと罰当たりなことか。急に雲行きが怪しくなり、ポツときたので、急いで公園内の東屋に逃げ込む。休憩と昼食を兼ねて土砂降りになった雨が上がるのを待った。その間も時間を無駄にすることなく、「夏の山行」をどうしようかと侃々諤々、しかし静かに意見を戦わせたのであった。

約 1 時間で雨が小降りになったので、道路の反対側にある「瓦塚古墳」、移築民家などを見る。最初の 2 基以外は周りから見るだけの古墳だ。13 時、バスで「忍城」へ向かう。郷土博物館になっていて、「三階櫓」が復元されている。入口門前に「花手水」(水盤にダリアなどの花を浮かべたもの)があった。

「忍城:三階櫓」を見学後、バスで 15 時に行田駅へ戻った。手持ちの水も無くなり、熱中症予防の水分補給のために、手頃な店を探したが、唯一ラーメン屋があるだけだった。そこで、1 時間強久し振りの反省会と水分補給をして、帰途に付いた。(夕刻、埼玉西部地方に大雨警報が出たらしい、また降られないでよかった。)

以上 陽田

ところで、「睡蓮」と「蓮」の違いは:

『睡蓮』 : 水面近くに咲く。茎長はせいぜい 30cm 程度。葉には切れ込みがあり艶がある。

『蓮』 : 茎長は 1m 以上にもなる。葉は円形で艶はないが、水は溜まる。花の命は 4 日位。

どちらも朝開花して、午後には閉じてしまう。それで『睡——蓮』(午後～翌朝まで眠る)とか。

この「行田蓮」は昭和 48 年に埼玉大学:江森教授らの調査・研究により、1,400～3,000 年前のものと判明したそうで、「大賀蓮」とは別の蓮だそうだ。

『閑話休題』

- A. 映画「のぼうの城」: 2012 年、野村萬斎主演の映画で忍城主 成田長親が 500 人の城兵と 2000 人の農民で、秀吉、石田三成の 2 万人を相手に戦い、城を守り切った話で、城主成親は「(でく)のぼう様」と呼ばれていたと。
- B. TBS のテレビ映画「陸王」: 2017 年、役所広司主演で、行田市の足袋作り百年の老舗がランニングシューズ作りに奮闘する話だ。「きねや足袋屋」の実話。
- C. 「行田の街」: 18 世紀からの「足袋蔵の町」として「日本遺産」に認定されている。最盛期には日本の足袋の 8 割を生産していたとか。今も足袋の貯蔵倉庫が街中に点在する。





